

# カトリック 仙台教区報

2016年7月3日 No.230  
発行  
カトリック仙台司教区  
〒980-0014  
仙台市青葉区本町 1-2-12  
Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任 広報委員会  
URL <http://www.sendai.catholic.jp/>

## 遺徳をしのび豊作祈願 春の後藤寿庵祭

水沢教会 高橋 昌神父

岩手県奥州市水沢区福原の地の恩人であり、キリシタン領主として信仰に生きた後藤寿庵の遺徳をしのび、この地の豊作と人々の平安を願う「春の寿庵祭」が、5月29日(日)水沢区西田の寿庵廟前で行われた。

この祭りは、春と秋の2回行われるが、春は、カトリック水沢教会が主催。今年の祭りは、平賀司教司式の野外ミサで40年前の偉業をたたえ、世界平和を祈念した。

ミサには、地元の方々、県内外の信徒ら、120余名が参列。入祭の歌「天は神の栄光を語り」に始まり、領民を守り、信仰を貫いた領主に敬意を示した。

田畑の祝別で平賀司教は、「神よ、後藤寿庵のゆかりの地に集い、心を合わせて祈ります。作物一つ一つの命を守り、育み、豊かな実りをお与えください」と祈り、香と聖水で祝別した。

さらに、説教の中で、寿庵と共に、東北のキリシタンたちの生き



方にも触れ、地元の人々を愛し、愛された生涯について語られた。好天に恵まれ、初夏の日差しとさわやかな風の中での祭典となった。

水沢教会は、「いつくしみの特別聖年」の仙台教区巡礼教会の一つに選ばれたこともあり、各地からの巡礼者、遠方からの参加者が多かったことも今年の祭りの特徴だった。

秋の寿庵祭は、9月10日(土)地元主催で行われる。

さらに、11月1日～8日、「寿庵の翼2016」イタリア紀行8日間を予定している。これは、20年前の1996年に旧水沢市時代に、市長はじめ188人が「寿庵の翼96平成の遣欧使節」としてローマ・バチカンへ行ったが、今年はあるから20年目、第2回目。詳しくは、水沢教会 高橋昌神父にお問い合わせてください。  
(携帯 090-4561-0454)



いつくしみの特別聖年

2015・12・8～2016・11・20

世界の悲惨さと、これほど多くの尊厳を奪われた兄弟姉妹の傷をよく見るために、目を開きましょう。そして、助けを求める彼らの叫びに耳を傾けるよう呼びかけられていることに気づこうではありませんか。彼らの手を握り、彼らをわたしたちのもとに引き寄せましょう。彼らがわたしたちの存在と友情と兄弟愛によるぬくもりを感じる事ができるようになるためです。彼らの叫びが、わたしたち自身の叫びとなりますように。そして、偽善と利己主義を隠そうとはびこることが多い無関心という壁を、わたしたちがともに壊すことができますように。

(いつくしみの特別聖年大勅書15)

### 生命の泉

衝撃的な事件は時代の特徴をよく映し出す。5月26日に神戸で84歳の夫が82歳の妻の首を絞めて殺した。てっきり夫の介護疲れだろうと同情したら「家事をしない不満からだ」と知って驚いた。同じ日に82歳の夫が79歳の妻を殺した。こちらは介護疲れだった。この二組は年のバランスから想像して60年前には祝福されたお似合いのカップルだったに違いない▼「殺すな」という掟には人は一人では生きられないという人間観がある▼「あなたの父母を敬えはどうか」。5月18日、横浜で高1の少年が母親(50)と祖母(81)を包丁で刺殺した。「勉強や生活態度についてガミガミ言われカッとなった」。父親(50)は単身赴任、妹(12)の5人家族高1クライシスという言葉があるそうだ。この子の抱えている不安や悩みを母や祖母は共有できなかった。家庭はもはや家族の誰にとってもシェルターではなくなりつつある。一緒に暮らしていても食べているものはそれぞれで、しかも孤食だ。会話はスマホで外と結ばれるもの、そばにいる人とは必要ない。まさに「ホテル家族だ」▼最近記憶に残った中学生の凶悪事件にも当てはまるが、「今は『この子は問題を起さないと安心できる生徒は5%くらいで残りの95%は極めて不安定な集団だ』と言われている▼子どもが急におかしくなった訳ではない。「家族の中で一番変わったのは親です(草薙厚子)」。今、信仰を重荷と感じている信者はどんな家庭を営み、どんな子育てをしているのだろうか▼イエスの教えや教会の決まりを生かすためには、今の現場に合わせて理解しなおす作業が必要だ。信仰は特効薬ではなく課題なのだ▼宣教などというが何も外に出て行って教えを広めることより先にみ言葉の精神を自ら生きているのでなければ伝えるものはないし、信仰の継承もおぼつかない▼簡潔に語られた十戒は、私たちの生きている所で具体的に適應される言葉に解釈されるのを待っている。(守)

# 大川小学校で鎮魂の祈り 仙台教区司祭団月例会

仙台教区の司祭団は、毎月最終の月曜日(年10回)に、月例会を行い、研修・情報交換・親睦を行っている。

5月30日(月)の仙台教区司祭団の月例会は、趣向を変えて、女川町商業施設「シー・パルピア女川」の見物と「大川小学校」で鎮魂の祈りをささげるスケジュールで行われた。最初の訪れた「女川は流されたのではなく、新しく生まれ変わったの

だ」のスローガンのもと、大々的な復興まちづくりの活気に満ちた工事現場を車から確認できた。もともとバイタリテイのある女川が、スケールの大きい復興に取り組んでいる意気込みを肌で感じる事ができた。

昼食後、「シー・パルピア女川」の商店街を散策

その後、東日本大震災の津波で、全校児童108名の7割に当たる74名が死亡または行方不明になった石巻市立大川小学校を訪れた。保護者たちによると、地震が起きた午後2

時46分は、下校時刻の直前で、スクールバスは待機していたという。バス会社のスタッフは、同じころ無線で運転手に避難を呼びかけた。そこで、運転手が「子どもたちが出てこないんだ」と応答したのを最後に交信が途絶えた。午後2時52分校庭に集まっていた児童たちには

防炎無線が、大津波警報を伝えたという。そこで、「この裏山に子どもたちを上げさせても大丈夫かと尋ねた教頭に、地元の人「ここまでは津波が来ない」と断言したとのこと。5年生だった哲也君も、6年

生の男子が担任に「山さ逃げた方がいい」と訴えた姿はつきり覚えていて「どうして山に逃げないのかなあ」と思ったと。

この悲劇から3年が過ぎたとき、ついに遺族が県と市を提訴した。

今では、悲惨な校舎の前には立派な慰霊碑が建てられ犠牲になった児童の家族を含めて全員の名前と校歌が刻まれている。また、その前

にあるANGEL OF HOPEのブロンズ像も輝いて参拝者に希望を与え続けている。

大勢の幼い命を犠牲にした大人たちの責任は今でも問われ裁判が継続されていると聞く。

慰霊碑の前で、司教の先唱で鎮魂の祈りをささげ、サルベ・レジナを涙のうちに斉唱した。

参加者は、いつもより少なかつたが、全員感謝のうちに帰途についた。(佐々木博)

7・2 ① 仙台白百合女子大50周年  
3 ③ 第5地区大会(北仙台)  
4 ④ 原町ベース起工式  
5 ⑤ 6 東京管区会議  
7 ⑦ 社会司教委員会  
8 ⑧ 部落差別人権委・定例会  
12 ⑫ 司祭評議員会・教区司祭団役員  
16 ⑯ 核廃絶ミサ・宣教司牧評・役員  
18 ⑰ ドミニコ会創立800年記念行事  
(渋谷台)

## 「寄り添い ともに生きるために」

司教 平賀徹夫



先月6月、司教総会会期中の15日午後、「『いつくしみの特別聖年』公開講演会」が催されました。日本カトリック障害者連絡協議会による企画で、会場は麴町(聖イグナチオ)教会。総会参加の司教全員も出席しました。公開講演会の表題は「寄り添い ともに生きるために 一障害者差別解消法を学ぶ」。社会の中にも教会の中にもある障害者に対する差別の実態(の一部)が障害者自身の口から表明され、それをどのようにして解消するか、という問題提起がなされたのでした。

『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』第15項で教皇フランシスコは語りかけます。「今日の世界には、どれだけ不安定で苦しい状況があることでしょうか。どれだけ傷が、もう声を上げることのできない多くの人の肉体に刻まれていることでしょうか。…この聖年の間に、教会はこれまでも増してこの傷の手当てをし、慰めの油を塗り、いつくしみの包帯を巻き、連帯としかるべき気遣いをもって世話をしよう呼びかけられることとなります。侮辱を与えることになる無関心、心を麻痺させて新しいことを求めさせないようにする惰性、破壊をもたらす白けた態度、そうしたものに陥らないようにしなければなりません。」

講演会は、「社会福祉法人AJU自立の家」専務理事(カ障連の初代会長)の山田昭義氏による講話に始まり、聴覚障害の方、難病で寝たきりの方、肢体不自由の方の発表と続きました。障害には、例えば、外見からはすぐ分からない聴覚障害があり、聴覚障害でも生まれつきの方や成長して失聴者となった方で障害の違いがある等、個人個人で全く違うことも強調されていました。社会でも教会でも同じです。教会での障害者対応はどうなっているでしょう。ミサや講演会で、手話通訳者が前に立つのは邪魔か、どのようにすれば障害者の一人一人を大切にすることになるのか、いろいろと考えさせられました。

そして終わりに思い出したのは、東日本大震災発生後すぐ救援活動に駆けつけた「AJU自立の家」発行の「被災障害者緊急支援・調査速報」第一面大見出し「障害者は避難所に避難できない」の一文でした。



大川小学校犠牲者の慰霊碑  
左側に希望の天使の像



2階まで津波が上がった大川小学校校舎

### 司教日程

7月・8月

- 8・7 ① 第3地区(花巻・北上教会)
- 9 ② 司祭評定例会・司祭団役員
- 17 ③ 宮城カトリック幼児教育連研修会
- 19 ④ 社会司教委員会
- 29 ⑤ 仙台教区司祭の集い
- 29 ⑥ 全ベース会議(中央協)
- 28 ⑦ 拡大サポーター会議
- 25 ⑧ 岩手カトリック幼児教育連研修会(一関)
- 22 ⑨ 教区司祭団月例会
- 21 ⑩ 宮城県宗法連代表者会
- 21 ⑪ 部落差別人権委・事務局会議
- 19 ⑫ 子どもと女性テラス
- 19 ⑬ 全国担当事務局会議
- 18 ⑭ 部落差別人権委・定例会
- 12 ⑮ 司祭評議員会・教区司祭団役員
- 16 ⑯ 核廃絶ミサ・宣教司牧評・役員
- 18 ⑰ ドミニコ会創立800年記念行事
- (渋谷台)

# 地区だより

第7地区  
会津若松・野田町・松木町・桑折・喜多方・南会津

昨年年度まで地区長だった舟山亨神父が帰天されて、地区長不在の時期がありました。今年度初め正式に、エメ神父が地区長になられ、ようやく6月25日に、地区協議会を持てることになりました。この日をもつて、教区評議員も、会津地区代表から福島地区代表になります。そんなわけで、この一年ほどは第七地区として報告すべき顕著な活動は行っておりませんが、教区報の担当の方から「第七地区の記事を・・・」とのメールをいただきましたので、地区内各小教区の様子を点描しましょう。

会津地区内の教会に司祭が不在となつたのは、実に130年ぶりです。(1885年会津若松教会設置・ラフォン神父が主任司祭として在住)今、常駐する司祭はいませんが、主日のミサは福島・郡山・白河から司祭が来てくださって、おむね会津若松は毎週、喜多方は月3回、南会津は月2回はミサがあります。ありがたいことです。震災被害を支援をする教区のスローガンとして「4号線から6号線・45号線へ」ということがありましたが、会津地区のミサについては「4号線から118号線へ」と

いう状況です。(南会津町、会津若松市、喜多方市はいずれも国道118号線が貫いています。)

◇松木町教会では、このたび、機関紙『アンジェルス』の創刊70周年記念号が発行されました。毎月、機関紙として発行し、大祝日や教会のお祝い日には冊子型で発行してきましたが、今年の創刊70周年記念号も、B5判185ページに及ぶ大冊で、平賀司教はじめ、松木町教会に様々な形で係わりの合つた方々から広くお寄せいただいた、貴重な原稿が掲載され、かつ、



アンジェルス70号

写真のページでは、現在の生き生きとした松木町教会の活動の姿などが載っています。さらに『アンジェルス』の歴史に触れるページもあり、信仰の歴史と力強さを感じ、極めて貴重な「資料」でもあります。

◇野田町教会では、6月5日(日)に、臨時の聖体奉仕者の任命式が行われ、平賀司教によって、9人の方々が新たに臨時の聖体奉仕者として任命されました。また、ヨハネス社製のチャーチオルガンが、全額寄付という形で設



野田町教会チャリティー・コンサート

置されました。聖霊降臨のミサの前に、祝福式を行いました。さらに、オルガン設置を記念して、6月19日(日)、チェリストの西牧佳奈子さんを迎えて、同教会信徒の富山律子さんとのデュオによる熊本地震復興支援のためのチャリティー・コンサートが行われました。130名を超える方々が集まり、聖堂に響きわたる音色を味わいました。

◇会津若松教会では、市郊外のキリシタン塚で、殉教者の霊を慰め、その強い信仰心に倣うために、6月5日(日)に板垣神父の司式



キリシタン塚での野外ミサ

で、野外ミサが行われました。この地で17世紀当初に、62人が尊い命を神様にささげたことを偲ぶもので、今も会津の信徒たちの心に支えと励ましを送っています。なお、毎年のごとくですが、このミサに向けて地元の老人クラブやJA会津の協力をいただいていることに感謝しております。

また、7月31日(日)には、舟山亨神父が帰天されて1年になるので、追悼ミサを行います。平賀司教の司式で、ご遺族や会津地区全体の信徒の皆さんによって、舟山神父の霊が主のもとにあつて永遠の安らぎのうちにありますようにとの祈りがささげられます。

第七地区には、コングレガシオン・ド・ノートルダム花園修道院、無原罪聖母宣教女学生会津若松修道院、ドミニコ会雪の聖母修道院があり、

た尊い働きが続けられています。また、カトリックの学校は福島で小・中・高・短大がそれぞれ1、幼稚園は2園、会津では小・中・高校それぞれ1、幼稚園が3園あります。高松の形で五月にはマリア祭が行われ、いつも子どもたちを守ってくださるマリア様のやさしさに自分たちの心に向けて祈る時が持たれました。

コ会雪の聖母修道院があり、まず、いづれも高齢化やシスター方の減少は避けられないもの、祈りや教育などによって、神様の意向に沿つ

**3R (=省資源+再利用+再資源化)**

リデュース リユース リサイクル

宇宙にボツンと浮かぶ地球。その表面に住んでいる人類。生きてゆくために必要な資源は自給自足するしかありません。そのために標題の3Rが不可欠で、とくに省資源が重要です。また、再利用・再資源化に必要なエネルギーは地球に注がれる太陽エネルギーで賄うことです。今流行のアベノミクスに逆らうようですが、過剰な消費を慎むことが地球の将来に対して責任ある態度でしょう。節消費は環境保護に対しても有効です。一番の環境悪化は戦争です。テロを含め、戦争の拡大要因の一つは武器の製造や拡散です。近頃の世界の趨勢は日本を含め、広い意味での環境破壊に突き進んでいるとしか思えません。時間をもとに巻き戻す方法はないのでしょうか。地球を大事にする会 白石 裕

# 豊屋丁教会100周年

## 豊屋丁教会 100周年を迎えて

6月4日(土)、晴れわたった朝日に豊屋丁教会はその白い外壁がより一層輝いていました。

この日、豊屋丁教会は100年を迎えた記念のミサが平賀司教はじめ、一ノ関教会から佐藤守也神父、東京からグアダルペ宣教会のイグナシオ神父、そして仙台在住の司祭を含め10名の共同司式で、120名以上の方の出席により厳かに行われました。

ミサ後、隣の小さき花幼稚園のホールで行われた祝賀会にも多くの方々にご出席をいただき、盛会のうちに行うことができました。

豊屋丁教会は一番古い洗礼台帳に「1916年の洗礼第1号をもって教会の創立とする」と明記されていることから私たち



司教司式の100周年記念ミサ

は今年を100周年の年とし、祝うこととしました。

今年から100年前は1914(大正3)年から1918(大正7)年にかけての第一次世界大戦のさなかでした。そして、この大戦の



ためベルリンで行われる予定だった第6回オリンピックが中止され、国内では大正デモクラシーの先駆者といわれる吉野作造が活躍した時代でした。

明治維新から半世紀、仙台も当時は10数万人程度の人口で、元寺小路教会、角五郎丁教会(現 西仙台)を中心に布教活動が行われていた中、仙台市街地の東のほうに於けるこの豊屋丁に、パリ外国宣教会のモンターグ神父が布教のため居を構えたのが教会の始まりと聞いております。

その後、第二次世界大戦中の苦難と混乱を乗り越え、戦後は小さ

き花幼稚園とともに幾度かの聖堂建て替えを経て、2011年3月11日の東日本大震災にも耐えて現在まで歩み続けてまいりました。

現在の聖堂の床はカーペット仕様になっており、履き物を脱いでミサをささげていますが、豊屋丁の名にふさわしく、先代の聖堂までは、聖堂内に畳が敷かれていました。私たちは畳の上でミサを通して主の食卓を囲む楽しさを受け継いでまいりました。この良き伝統は私たち豊屋丁教会の宝です。そしてこの宝をこれからも磨き、受け継いでいきたいと考えています。(豊屋丁教会 原 尚幸)

### 50年後の人々へ

### この碑を残そう!

### 仙台広瀬川殉教記念碑

仙台広瀬川大橋のたもとに建っている殉教記念像は今から約45年前(1971年9月)完成したものです。彫刻家でもある深沢守三神父が制作した、福者カルワリオ神父と、武士、農民の3体の殉教者像が建てられています。

毎年、2月最終の日曜日には、この記念像の前で、広瀬川殉教祭が行われています。

除幕式はポルトガル駐日大使の列席の下に行われました。

それ以来この記念像に宮織の手が入れられた記録はなく、そのためか像自体は問題ないように見えますが、台座部分に、ひび割れ、塗装の劣化が見られこのまま放置すれば、像の倒壊も危惧されるこ

とから、早急に手入れが必要との専門家の意見もあります。この記念像建設を提案し事業推進を担ったのは当時の「仙台地区壮年連盟」でした。



2月の広瀬川殉教祭

その意志を受け継ぐ「仙台壮年の会」としては、この殉教碑を50年後の人々にも残そうと、本年4月の総会で、修繕工事に向けて動き出すことを決めました。

殉教碑の説明版もあるが、外国人観光客のためにも英語の説明版も加えたいとの意見もありました。このプロジェクト実現のためには、かなりの費用も必要となることから、教区の皆さんのご協力が望まれます。その節はよろしくお願ひします。(仙台壮年の会 世話人 岡田 謙一・八木山教会)

### 「キリスト教の核心」とは?

### 仙台壮年の会主催勉強会

### 講師・横島健二神父

6月18日(土)、北仙台教会信徒館で勉強会が行われ、約30人が参加した。

キリスト教はどんな神を礼拝しているのか?

「信仰宣言の中に信仰の核心がある。」

① イエスの証言から、父なる神・御子イエス・聖霊が一体となった神。

② 弟子たちの証言：十字架に架けられ、3日目に復活したイエス。

この二つがキリスト教の核心である。では、信じるとはどういうことか?

目に見えないもの、その背後にあるものを読み取る力は、人間独自の能力である。科学も、宗教もこの人間の能力によって発展した。

カトリック教会の間違ひは、無数の教え(宗教)がある中で、一つだけが正しい。救いはそこにしかないとしたところにある。自分だけが正しいと主張するから喧嘩になり、戦争になる。バチカン公会議の文書「信教の自由に関する宣言」にあるように、信仰に生きるとは、個人的な主観、確信からくる信仰によるものであって、だれからも強制・束縛されるものではない。心から自分が納得して生きる生き方であり、それは一人ひとり違っていて当たり前である。

自分の信じることによって生き、あなたを導いている神に従って生きることが大切であると強調した。



身振り手振りを交えて講演する横島神父

# 設立80周年によせて 盛岡ドミニカン・ロザリオの聖母修道院 スール・マリ・エンマヌエルOP日下

の函館教区長フェルマ  
ス師(ドミニコ会)  
の観想修道院設立の  
希望に接し、天



デュマス師  
主のみ旨では  
と考えた院長  
は、デュマス教  
区長へ書簡を

1933年の夏、ベルギー・デイン  
のベトレヘム修道院において、ズール  
の司祭スーウトウ師より布教地に観想  
修道院創立の話があり、特に中国のフ  
ニク教区長モンシニョール・ラボア  
ドール師(ドミニコ会)が観想修道院  
を執望されていた。その後数人の修道  
女より創立に行きたい旨の申し出があ  
った。1935年、中国における政治  
的混乱により、創立は未定となった。  
しかし準備は着々と進められていた。  
ある布教雑誌に掲載されていた、日本

したため、彼より観想修道院の創立を  
引き受ける旨の返信を受けた。その後  
創立の地は盛岡と決定された。193  
6年5月にベルギーから創業者6名を  
迎えたのは、彼の後任、仙台教区長ル  
ミュー司教(ドミニコ会)でした。  
ベルギーの恩人には創立後20年にも  
わたって援助を受け、また日本の恩人



ルミュー司教と創立時の6名

信徒の皆様にも多大な援助をいただき  
私たちの助けとなり、励ましにもなっ  
ています。  
創立当初からホスチア作り、山羊  
牛等の飼育、翻訳、その後カレット・



創立記念ミサ

ニクナツク等の製菓事業を盛んに営  
んでいましたが、様々な要因により逐  
次終了し、今から10年前位には、製菓  
事業を全部辞めました。幸い、ガレッ

トは佐々木製菓さんに、ニクナツク  
はあすなろさんに引き継いでいただき  
ドミニカン・クッキーの味はまた盛  
岡の地に健在です。

現在は、日この祈り、ミサ聖祭、  
教会の祈り、ドミニカン・ファミリー  
の会場、黙想者の受け入れ、見学者の  
応対、ボランティア活動の方々との交  
流等、活発に励んでいます。

5月16日創立80周年を迎え、平賀  
司教、井原神父(ドミニコ会)、インセ  
ン神父(四ツ家教会・神言会)の共同  
司式ミサが、信徒の方々が歌隊席の大  
部分を埋めつくすなか、荘厳なうちに  
も和やかに執り行われ、感謝のうちに  
80年を振り返り、感無量でありました。  
高齢化社会の中にあつて、人々の励  
みとなるような共同体となつてほし  
い」という人々の熱い思いを心に収め  
て、現在試行錯誤の状態です。

私たちの修道院では、今後もそれな  
りの発展をいつも念頭に置いて祈り、  
活動してまいります。

## ハンセン病問題と仙台教区 人権を考える委員会

### 松丘教会の歩み(3)

隔離政策の被害は本人だけではなく  
家族に対する差別偏見に及び  
ました。家族が身内から患者を出  
したことを隠さざるをえない、本  
人が迷惑をかけたくないとの思い  
から、故郷に帰ることが出来ず、  
亡くなった後も実家のお墓に入る  
ことが出来ない等から、多くの方  
が療養所内の納骨堂に眠っていま  
す。

ケベック外国宣教会は、松丘保養  
園近くの市宮三内霊園に隣接した  
土地を購入して、市内信者のため  
に三内カトリック墓地を造営した  
際、その一画を松丘教会信者に提  
供しました。1981(昭和56)年、  
松丘教会信者の共同墓碑を造  
り、今では77名の霊魂が安ら

かに眠っています。眼下に松丘教会を  
一望できるばかりでなく、桜の木をあ  
ちこちに植え芝生を敷いた居心地の  
よい場所で、青森市内の信者の皆さん  
は桜の咲く頃に墓地清掃とお花見を  
されます。  
ケベック会は戦後の1949(昭和24)  
年、同じカナダのドミニコ会から、青  
森県の司牧担当を移管されました。松  
丘と共に歩んだ神父様方を紹介しま  
す。  
1950(昭和25)年ケベック会最初の  
主任となつたフランシス・レフーベル  
神父は、助任アヒール・クルノエ神父  
と信仰共同体の基礎を作り、1951(昭  
和26)年に助任ルシエン・ボリュエ神  
父と愛徳会の結成を導き、1957(昭和  
32)年には助任マルセル・クレポー神  
父と聖堂を建設されました。  
1961(昭和36)年からボリュエ神  
父が主任となり、助任ジル・ランド  
ルービル神父と1963(昭和38)

年伝道館を建設、助任イバン・ルメー  
神父と1964(昭和39)年オジリア会  
1965(昭和40)年フランシスコ会第三  
会の結成を導かれました。  
1967(昭和42)年にポール・ラベ神  
父、1971(昭和46)年にフローラン・ベ  
ンサン神父が主任となり、受洗者がふ  
たたび相次ぐようになりました。  
1978(昭和53)年から主任となつた  
デュベ・ジル神父は、1980(昭和55)  
年ガスパリ大司教の来園、1981(昭和  
56)年の共同墓碑建立、1982(昭和57)  
年の宣教50年献堂25年記念式典に  
尽力されました。  
1987(昭和62)年にラヴオア神父、  
そしてケベック会最後の主任となつ  
たのはランドルービル神父でした。  
【参考】滝田十和男「カトリック松  
丘教会の昔と今」、『星の丘』松丘カ  
トリック教会宣教50周年献堂25周  
年記念誌  
人権を考える委員会 御供真人



林の中で集られたお花見(昭和36年)



たくさんたくさん集らいて下さったペンサン神父、お別れパーティーで大いに笑う。(昭和53年)



歌隊席でミサに参列する信徒たち

# 「絆・サンタマリアにならって」 仙塩地区連合婦人会「あけの星会総会」

2016年度総会が、6月12日(日)今年  
は北仙台教会を会場に90名の会員が参加  
して開催されました。総会では前年度の活  
動報告、会計報告、会則一部改正、201  
6年度の活動テーマ「絆・サンタマリアに  
ならって」にそつての活動計画、予算の審  
議、今年度の8教会の役員を満場一致の拍  
手で承認され議事の一切を終了。

昼食後、今年度の活動テーマ「絆・サン  
タマリアにならって」と題して、第五地区  
長である會津隆司神父の講演を聞いた。

會津神父は、「サンタマリアは長崎っぱ  
いと感じるかも知れないが、長崎の信徒の  
歩みだけではなく、日本のカトリック教会  
の大切な一つの区切りと感じた。信徒側か  
ら見れば、司祭発見であり、司祭から見れ

ば信徒発見になる。  
『あなたの心は私たちの心と同  
じ』つまり同じ信仰を生きている。

そのような歩みの中のサンタマ  
リアという言葉の響きは、信仰の面での交  
流ではないかと思う。信徒たちは20余年自  
分たちの信仰を守り、伝えて来た。

プチジャン神父たちは、ひよつとすると  
隠れ切支丹がいるのではないか、というよ  
うな歩みの中の出会い、その出会いの歩み  
が今も続いているのではないだろうか。ロ  
ザリオの祈りからマリア様がエリザベトを  
訪問した事から学べることは、困っている  
人がいたら出向いて行って喜びを共にする  
生き方。カナの婚宴では、ぶどう酒がなく  
なったことに気づき、すぐ感じたことを行  
動に移すこと、このような気づきは理屈で  
はなく、信者としてこのように生きるべき  
だとされ、善きサマリア人のたとえ話から



會津神父の講演を聞く会員たち

は、何も言わずにあわれに思っつていつくし  
みの気持ちを旅人に示した。

## 「アパカリン(a cappella)」 ② 聖マルタンのマント

元寺小路 白石 裕

聖人伝(光明社、1952)による  
と、マルチノ(平賀司教様の靈名、  
フランス読みでマルタン)の父は  
ローマ軍の大佐で、北イタリアか  
らハンガリーに転任するとき、そ  
の息子を勉強のためローマに残  
しました。そのころマルタンは初  
めて教会を訪れ、キリストの教え  
に心を惹かれました。その後、父  
の意志を受け、15歳で軍隊に入り  
北フランスで軍役に挑みました。

が無く、とつさに自分の着てい  
るマントを二つに裂いて半分  
を乞食に与えました。  
その夜、彼は夢に、半分のマ  
ントを身につけたキリストが  
傍らの天使を顧みて「これは受  
洗志願者のマルタンが私にく  
れたもの」と語られるのを聞  
きました。殉教しないで聖人にな  
ったかなり珍しい例です。  
このマルタンの逸話で私の気  
になることは、マントを半分  
裂いて渡したことです。何故マ  
ントを脱いでソックリ渡さなか  
ったのか。  
半分に裂い  
て与えるの  
とどう違う  
のか?次回  
に私の考え  
を述べます。



10年後、  
トウールの司教となり、修道院  
を建てて会則を定めましたが、  
これがヨーロッパにおける初め  
の修道会です。これにより彼  
はフランスの保護の聖人とされ  
ました。殉教しないで聖人にな  
ったかなり珍しい例です。  
このマルタンの逸話で私の気  
になることは、マントを半分  
裂いて渡したことです。何故マ  
ントを脱いでソックリ渡さなか  
ったのか。  
半分に裂い  
て与えるの  
とどう違う  
のか?次回  
に私の考え  
を述べます。

**ホームレス支援の炊き出しにご参加ください!**

108万都市の仙台市には100数名のホームレスの方  
たちが、公園や駅舎などをねぐらにして生活していま  
す。(2016年1月16日、仙台協友会調べ)。このよう  
なホームレスの方たちを支援するために、カトリック正義と平和仙  
台協議会(木元範子会長)では2001年10月から、第2土曜日に炊き  
出し(食事と生活用品の提供)を始めました。

ボランティアとして、仙塩地区教会のみなさんに参加を呼びか  
け、30名ほどの人数でなんとか、こなしています。

ただ、現状としては、炊き出しも16年たつと若手がへり、60歳  
~70歳の高齢者でまどまってしまっています。なんとか若手に参  
加していただいて、活動を継続していきたいと願っています。みな  
さまのご参加をお待ちしております。(渡辺 清)

光を見いだすことが出来ることを学び、特  
に幼稚園児からは癒され、元気をもらえた。  
フィリピンの女性の方々の絆も深まり、希  
望の光となる姿を見、感じる事が出来た。  
あけの星会には今後も南三陸のフィリピ  
ン女性の会にささやかなつながりを持ち続  
けてほしいと願っている。  
マリア様にならって出会いを通して何か  
を感じてもらい、感じた心を大切にしなが  
ら、思わず駆け寄って大丈夫と声をかけ、  
そんな歩みを大切に一緒にたどって行きま  
しょう」と話を結ばれました。  
あけの星会会長 佐山 淑子(塩釜教会)

# 新緑に包まれた聖堂で司教ミサ 春の大籠巡礼

「殉教地大籠を守る会」は2009年秋に発足して以来7年目となる。

殉教地に建てられた大籠教会(現在教区管理)は、米川教会の巡回教会であったが、信徒がいなくなり、ほとんど誰も訪れることもなく、荒れたままの状態だった。

殉教地の教会を大事にしたいと有志が集



大籠教会での司教ミサ

まり、この会を立ち上げ、教区の垣根を超えて多くの人に呼びかけた。会の趣旨に賛同し会員となられた方は現在160名を超えている。

会の総会は毎年5月初めに巡礼を兼ねて大籠教会で行うことが恒例となっているが、今年は大籠教会が「いつくしみの特別聖年」の巡礼教会に指定されたことから会の最高顧問である平賀司教にミサをささげていただくことをお願いしたところ、快くお引き受けくださった。

5月5日の子供の日、仙台方面より約40名、盛岡・花巻・水沢方面より約20名、地元の方数名で合計約70名が大籠に集り、緑に包まれた聖堂で聖歌を歌い、神のいつくしみと殉教者の心に思いを巡らす時間を共にした。

総会では、今年度活動の重点事業として傷んできている聖堂の鐘楼を、足場を組んで本格的に修繕することが提案され承認された。

ミサの後、昼食を共にし、自己紹介などで短い間であったが宮城と岩手の信者同士の交流もなされた。午後は教会の周囲の史跡巡りをして春の日の一日を楽しんだ。(殉教地大籠を守る会 事務局 岡田謙一)

## 子どもの「初聖体」

元寺小路教会

5月29日(日・主の聖体祭日)、「子どもとともにささげるミサ」のなかで3人のかわいい仲間が初聖体を受けました。幼児洗礼を受けた子どもが、入信の秘跡の完成として、聖体の秘跡を受けることを初聖体拝領といえます。

晴れの日にかけつけたお友だちも「共同祈願」の中で、これからも友だちを大切に祈り、



初聖体を受けて信徒の仲間入り

して欲しい、平和な世界で暮らしてほしい、などと祈り、母親世代の方からは、神さまの子どもとして、世界に羽ばたいて行けますように、等の祈

りがささげられた。

## 巡礼 信仰の旅

ニコラウス・コンデイ神父

特別聖年ローマ・イタリア巡礼とルルドへの旅

5月17日〜27日、遠野教会・四ツ家教会の有志たちと共にイタリアとルルドの巡礼に参加し、何よりも先ず神様に感謝します。そして、共に巡礼した信者さん方に感謝します。この巡礼でまた新たな霊的な体験をしたと感じています。

10日間の巡礼を無事に終えたことは三位一体の神様のお恵みと、優しいマリヤ様が同伴してくださったお陰だと確信しています。

この巡礼を振り返ってみて幾つかのことを学ぶことが出来た気がします。

### ◇出会い◇

一期一会、という日本語のことわざがあります。毎日に出逢う人々を大切に、という意味合いがあります。



このことわざは正しくこの巡礼にも感じました。巡礼参加者が、お互いに助け、寄り添い、励まし、奉仕し合い、支え、支えられながら、巡礼地を回り、進んでいることに気づかされました。教会のあり方、信仰者の正しいあり方も同じでしょう。お互いを大切することによって教会、私たちの人生が豊かになるでしょう。

### ◇祈り◇

旅行と巡礼は違います。旅行に祈りは必要ないかもしれませんが、巡礼に祈りは必

ず必要です。祈りのない巡礼は「巡礼」とは言えないと思います。様々な困難な状況を共に乗り切るために神への深い祈り、お互いに信頼し合うことが巡礼の持つ特徴の一つです。

朝の祈りと晩の祈りがあり、食前と食後の祈りがあります。毎日のようにミサとロザリオの祈りも唱えます。またルルドで、国と言語を超えて、巡礼者の皆がロザリオの祈りを唱え、アベマリアの歌を歌いながらろうそく行列をしました。

このロザリオの祈りとうそく行列によって私たちは共に信仰を育むような気がしました。また皆が一人ひとりで歩くのではなく、兄弟姉妹として、共に手をつないで歩み、共に福音の喜びを一人でも多くの人々に照らせるように、というメッセージも伝わってきました。

祈りは信仰者の霊的な糧です。

### ◇聖人たちとの触れ合い◇

使徒信条の祈りの中で「聖徒の交わり」という文があります。これは、生きている私たちは亡くなった聖なる人と、イエス・キリストによって交流していることを信じるということです。

聖人たち「聖ペトロと聖パウロ、ピオ神父、アシジの聖フランスコ、聖クララ、聖ベルナデッタ」の生まれ育ち、教会、宣教活動の場所を訪問したことによって、「聖徒との交わり」の信仰を身近に感じました。聖人たちがあらゆる場面で宣教活動をし、素晴らしい信仰の証をしてくださったと実感しました。

聖人たちの信仰と情熱は生きている私たちの導きと支えになるでしょう。

# ドミニコ会創立800年と 仙台ロゴス講座



2015年11月7日ドミニコ会諸聖人の祝日に開幕した『説教者会ジュビレ(聖年)800年祭』を、創立800年記念として世界中のドミニコ会兄弟姉妹は祝っております。

ドミニコ会は、1206年に、聖ドミニコにより始まり、1216年にローマ教皇ホノリウス3世によって認可された修道会です。正式名称は「説教者修道会」(Ordo praedicatorum)と言います。(OP)と言えはドミニコ会員のことです。

フランシスコ教皇は、開幕式の翌日、ドミニコ会800年祭を一般謁見で紹介し、教会への奉仕に感謝の意を述べ、祝ってくださいました。

前々仙台教区司教 佐藤 千敬 OPが設立した「仙台ロゴス研究所」は、ドミニコ会創立800年を記



念し、2016年度仙台ロゴス講座(ドミニコ会の偉人たち)を6回行います。

聖ドミニコは、神のみことばと真理を語りました。その精神を受け継いだドミニコ会の偉人たちには、シエナの聖カタリナ、聖トマス・アクイナス、現代では、ノーラン、コンガール、ラグランジユ等々、多数おります。

第1回目は、5月21日(土)、「ドミニコ会と2人のライモンド」と題して、ラトゥール神父が話されました。

第2回は7月24日(日)、「聖マルチン・デ・ポール」を取り上げます。

また、ロゴス講座は、奇数月の第3土曜日14時~15時30分、北仙台教会信徒館で行います。講師の都合上変更がありますので、ポスターなどをご覧の上、どうぞご参加ください。お待ちしております。

(聖ドミニコ女子修道会 青野木修道院 Sr.佐々木)



## 告知板

### ◆第23回 核廃絶と平和を祈るミサ

日時：2016年7月16日(土)  
15:30~ロザリオの祈り  
16:00~核廃絶と平和を祈るミサ  
会場：カトリック八木山教会  
司式：仙台教区 平賀 徹夫 司教  
主催：カトリック正義と平和仙台協議会  
連絡先：090-2022-4007(木元)

1945年7月16日、世界最初の原子爆弾がアメリカ・ニューメキシコ州の実験場で爆発しました。それから20日後、原子爆弾は広島と長崎に投下され、数十万人の尊い命が奪われました。私たちは23年前より、この7月16日に毎年ミサを捧げてきました。原子爆弾にも原子力発電にも頼らない社会・核のない世界に歩み出すことを共に祈りたいと思います。どうぞご参加下さい。

### ◆信徒としての使命を生きる 一私の固有の召命—

3回シリーズ第1回「ユスト高山右近と使命に生きる信徒」  
高山右近の生き方から、キリスト者として自らの固有の使命をどのように選ぶとるか学びます。どなたでも参加できます。  
日時：2016年7月16日(土)18:00~20:00 場所：元寺小路教会  
主催：信徒養成チーム(担当司祭：森田 直樹)  
講師：鈴木 隆(霊性センター せせらぎ スタッフ)  
\*第2回は、10月8日、第3回は、来年1月7日の予定。

## 新刊紹介



### 絵本「むらさき色の滝」

著者 帯木蓬生/発行 女子パウロ会/定価 各1200円+税  
著者・帯木蓬生(はげきぎ ほうせい)氏は、福岡県中間市に住む、作家・精神科医です。『三たびの海峡』で吉川英治文学新人賞を受賞し、『閉鎖病棟』では山本周五郎賞を、『逃亡』では柴田錬三郎賞を受賞なさっています。今は、九州の忘れられた受難であるクリシタン禁教の歴史を掘り起こそうとなさっています。久留米藩の水枯れに苦しむ5人の庄屋たちが筑後川に堰を造ることに、天草の乱を描いた『水神』という作品もあります。

その帯木氏が、現代日本の子どもたちに、家族を大切に思いやる心の大切にする心を取り戻してもらいたい、そのためには民話が良いと、民話シリーズを書かれました。絵は小泉るみ子さんが担当なさっています。

「むらさき色の滝」は、かご作りの名人のおばあさんと孫の庄一のお話です。山の中腹にある大藤は咲いた時は、見事な紫色の滝のように見えます。その大藤にまつわるおばあさんと庄一の話です。

「つなみとゴン」は、大津波にあった漁村に住むおじいさんとおばあさんが、2匹のゴンとゴンに助けられたお話です。

絵本の説明、解説は難しいものですが、絵本は実際に手に取って、読んでいただいたとき、その絵本が、読者に語りかけるものです。ぜひ、お目通しください。



## 編集後記

6月18日、仙台正平協主催の「武力によらない平和を！」の講演会で、伊藤朝日太郎弁護士の話の聞いた。「安保法制」、「集団的自衛権」、「憲法9条の自民党政改案新設される「緊急事態法」などが、日本の将来にとって大きな問題を抱えていることを分かりやすく説明され、神のみ旨が行われますようにと祈っているキリスト者にとつて、「宗教と政治は別物だ」と言っている無関心でいるわけにはいかない。

来たる参議院議員の選挙には、キリスト者としての立場で賢明な選択が望まれる。

一方で、教皇フランシスコは、「いつくしみの特別聖年」で、教会は、社会の中で差別され、貧困に悩み、傷つけられているすべての人々に、目を向け、招き入れ、寄り添うように招かれていると大勅書で述べておられる。私たちは、教会の中に閉じこもって手を合わせていられないと言わなければならない。(岩井)